

惑星地球科学2 (第三回目)

海洋

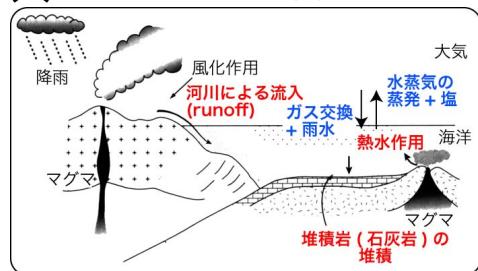
東京大学総合文化研究科：
小宮 剛 準教授
2014/10/28

地球：大気・海洋を持つ惑星



現在海洋を持つ地球型(固体)惑星は地球だけ

(1) 海洋：海洋への物質の流入・流出



- (1) 大陸地殻(河川による)の流入(浸食・風化・運搬)
- (2) 中央海嶺における熱水変質作用
- (3) 堆積物(石灰岩・泥岩・チャート・Mnノジュール)の堆積
- (4) 大気とのガス交換や雨水による流入。蒸発

① 垂直構造

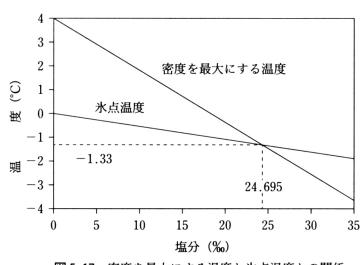
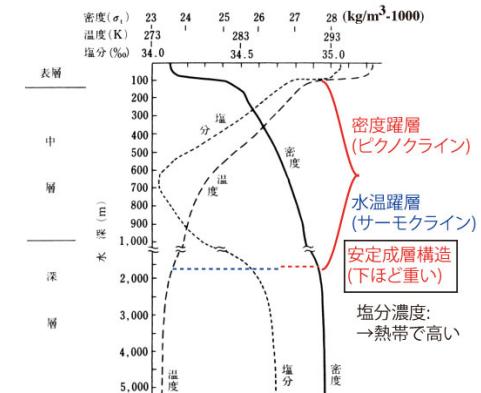
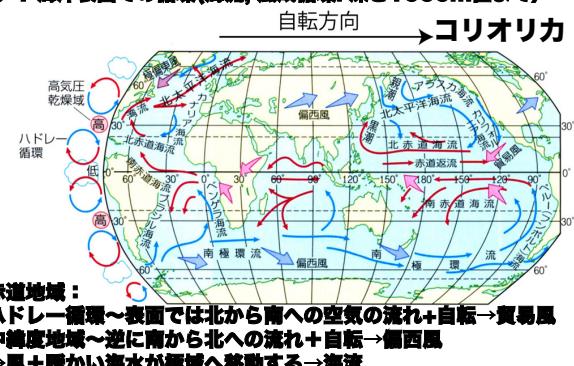


図 5-17 密度を最大にする温度と水点温度との関係

陸水では4°C時に最高密度(氷が浮く)。表面から凍結。
海水の場合、低温ほど高密度。
密度成層しやすい。表面から冷やされると、海水全体が
氷点以下になるまで凍結しない。

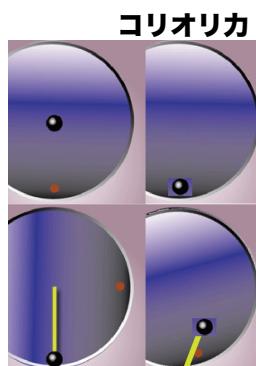
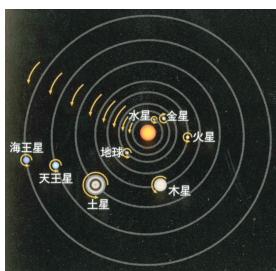
海洋の循環(2つのタイプがある)

②-1 海洋表面での循環(潮流、風成循環: 深さ1000m位まで)

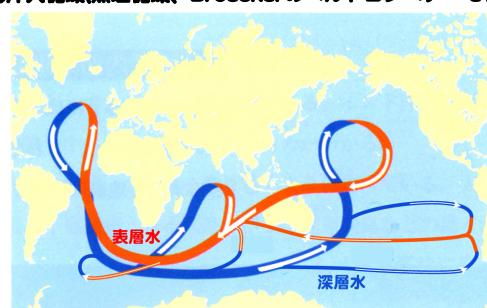


赤道地域：
ハドレー循環～表面では北から南への空気の流れ+自転→貿易風
中緯度地域～逆に南から北への流れ+自転→偏西風
→風+暖かい海水が極域へ移動する→潮流

海洋の循環(2つのタイプがある)

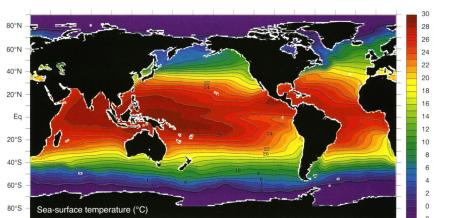


②-2 海洋大循環(熱塩循環、Broeckerのベルトコンベーモル)

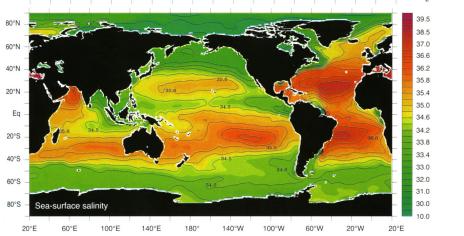


① Stommel(1961)によって提唱され、Broeckerによって海水の年代を¹⁴Cを用いて測ることによって実証された。
→最も古い年代は北太平洋深層水で約2000年(数千年規模で循環)

②-2A 海洋表面の 温度分布



②-2B 海洋 表面での塩 分濃度分布



②-3 海洋大循環(海洋断面)

②-3A 海洋大循環(熱塩循環)の駆動力(密度による循環)

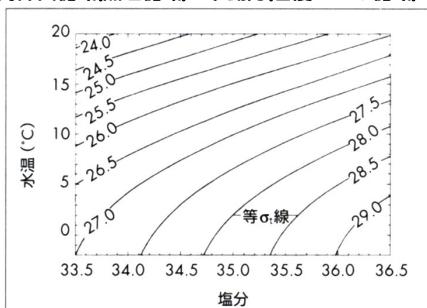


図 2.14 水温 (T)、塩分 (S)、密度の関係を示す $T - S$ 図

σ は(密度-1) × 1000

海水密度は温度と塩分濃度によってコントロール

③-1 湧昇域

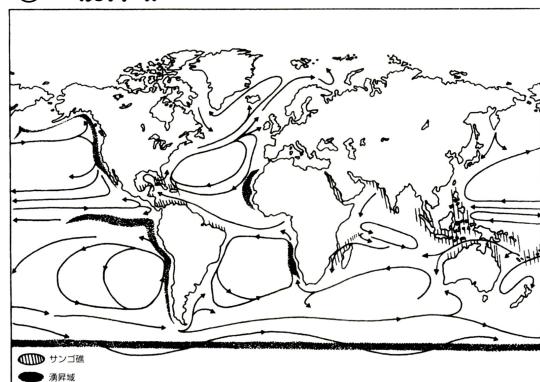
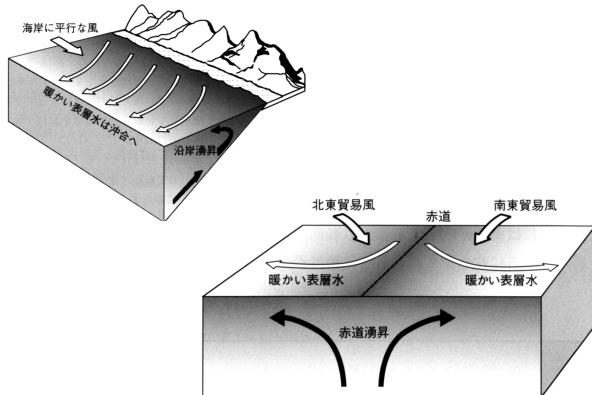


図 3.10 世界の海洋における湧昇域とサンゴ礁の分布

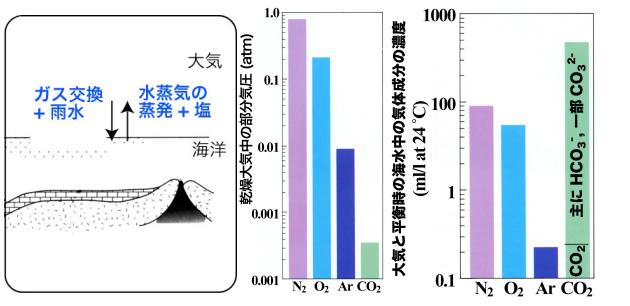
③-1 演習問題



(5) 溶存ガス -大気とのガス交換+雨水-

(1) 大気とのガス交換

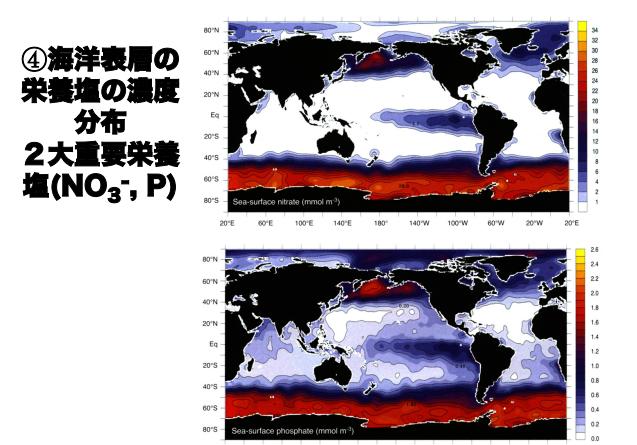
気体が液体に溶け込む量：ヘンリーの法則に則る



④ 海洋表層の

栄養塩の濃度

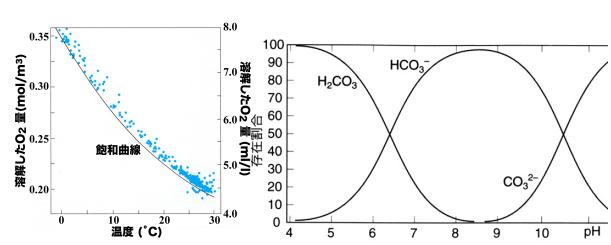
分布 2大重要營養 素(No. 1: B)



(5) 溶存ガス -大気とのガス交換+雨水-

(1) 大気とのガス交換

(1) 大気とのガス交換
　　気体が液体に溶け込む量：ヘンリーの法則に則る

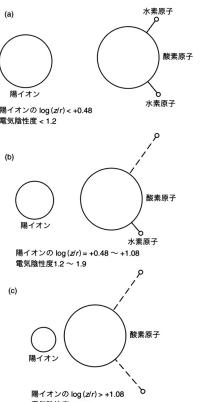
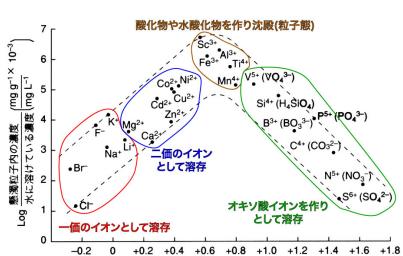


溶存元素

①イオン(+錯体)、無機錯体や有機錯体

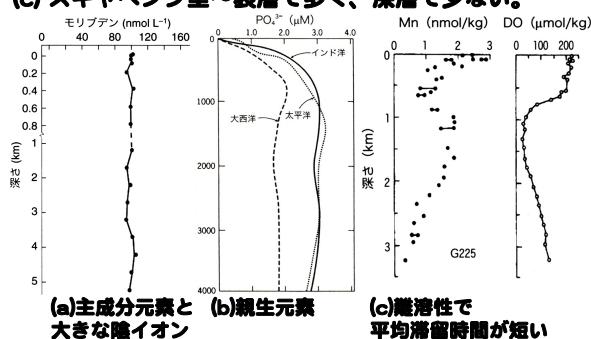
②粒子態~

有機物、水酸化物や酸化物等



③ 海水組成の鉛直分布

- (a) 保存性成分型 ~鉛直方向で濃度が変化しない
- (b) リサイクル型 ~表層が低く、深層で高い
- (c) スキヤベントジ型~表層で多く、深層で少ないと。



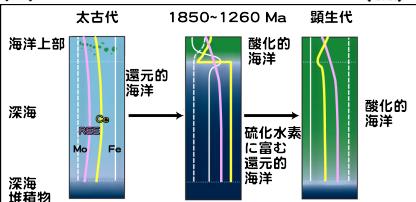
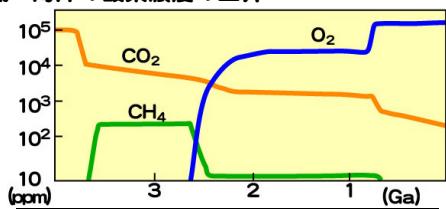
海水中の主なイオンの濃度と滞留時間

イオン	濃度(μM)	滞留時間(万年)
Cl ⁻	5.6x10 ⁵	9,000
Na ⁺	4.8x10 ⁵	6,000
Mg ²⁺	5.5x10 ⁴	1,000
SO ₄ ²⁻	2.9x10 ⁴	900
Ca ²⁺	1.1x10 ⁴	100
K ⁺	1.0x10 ⁴	100
C(HCO ₃ ⁻ , CO ₃ ²⁻ , CO ₂)	2-2.4x10 ³	8
B(B(OH) ₄ ⁻ , B(OH) ₃)	8.6x10 ²	10,000
Cu(CuCO ₃ , Cu ²⁺ , Co(OH) ⁺)	4.3x10 ²	1,000
Si(OH) ₄	0.02-1x10 ³	0.05
Fe(Fe(OH) ₃)	0.5-6x10 ³	0.2
P(NaHPO ₄ , HPO ₄ ²⁻ , MgHPO ₄)	0-0.1x10 ³	2
Mn(Mn ²⁺ , MnCl ⁻)	0.08-3x10 ³	0.006
Al(Al(OH) ₄ ⁻ , Al(OH) ₃)	0-4x10 ²	0.02
Ce(CeCO ₃ ⁻ , Ce ³⁺ , CeCl ²⁺)	3-80x10 ⁶	0.01
Nd(NdCO ₃ ⁻ , Nd ³⁺ , NdSO ₄ ²⁻)	7-50x10 ⁶	0.06
可溶性アルカリ土類(Sr ²⁺ , Rb ⁺)	91	5
可溶性オキソ酸(MoO ₄ ²⁻ , UO ₂ (CO ₃) ³⁺)	1.07x10 ¹	80
	1.4x10 ²	40

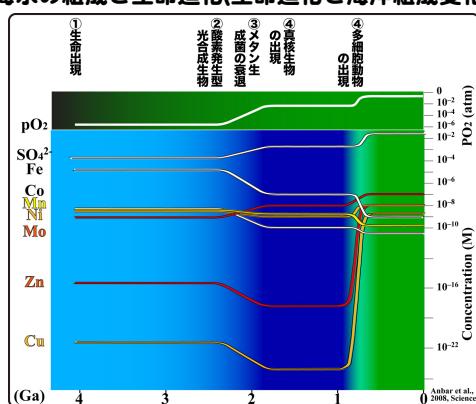
平均滞留時間(τ) = (海水中の全量 mol)/(流入量mol/y)

タイムスケール：熱塩循環(数千年), 海流(数ヶ月)

大気・海洋の酸素濃度の上昇



海水の組成と生命進化(生命進化と海洋組成変化の関連)



(3) 縞状鉄鉱層型

(1) 鉄



縞状鉄鉱層

18億年前以前にのみ存在
(例外は7億年前頃)

海水中のFe²⁺
が酸化されて、
Fe³⁺になり、
沈殿(FeO(OH))

縞状マンガン層

23億年前

海水中のMn²⁺
が酸化されて、
Mn³⁺またはMn⁴⁺になり、沈殿



縞状鉄鉱層(BIFs)の形成時期 (Klein & Beukes, 1992)

